

後記

今月は宛然寺子屋特輯の観があるが、私としても大體語り盡した氣がする。他に誰か専門家の寺子屋談を載せようと思つたが、果せなかつた。「萬代峯子」は「菊吉の寺子屋」を書いて、五十四枚の内四十枚目あたりで投げ出しさうになつた時に、息拔きのつもりで書いた。「寺子屋」を読むのが厭になつた時にでも御覽願ふ。それ以上の意味はない代物である。

大谷好雄氏から「海援隊」の批評を頂いた。紙上より厚く御禮申上げる。氏は東京市勤務の新劇通で「テアトロ」其の他に批評を執筆して居られる。御精讀を乞ふ。

新國劇の「沼津兵學校」と前進座の「若き啄木」は次號に廻した。新國劇とは四つに組むつ

もりである。

扉の繪の作者、山本星海氏は大阪の芝居茶屋「兵忠」の御主人である。御紹介申上げると共に御禮申上げる。

今月は二度病氣をして弱つたが、やつとまじめ上げることが出来た。もつと健康に注意したい。

創刊號品切れの所、増刷が出来た。御入用の方は御申込願ふ。

中支派遣軍の宮林春雄と言ふ方から再度劇評の禮狀を頂いた。どなたがお送り下さつたのか、心當りの方は御一報願ひたい。第二號からは小生の方よりお送りしてゐる。